善照寺寺報
ぜんしょうじ
第１７号

〒272-0131
市川市湊十八番二十号　善照寺
電　話〇四七（三五七）二二三二
ＦＡＸ〇四七（三九七）一三二一

愚者の自覚を　家庭にみ仏の光を
社会に慈しみを　世界に共生を

善照寺住職　今岡達雄

明けましておめでとうございます

浄土宗では二十一世紀に入った二〇〇一年に、浄土宗の教えを現代的な言葉で示した劈頭宣言を発表しました。表題に示したのがその劈頭宣言です。特に第一句『愚者の自覚を』は、浄土宗の教えを理解する上で極めて重要な言葉です。法然上人は

「浄土門は愚痴に還りて極楽に生ず」、「智者のふるまひをせずして、ただ一向に念仏すべし」とのことばを残されております。何よりも自らのいたらなさを見つめる「愚者の自覚」が浄土宗の原点です。

お釈迦様の言葉を集めたダンマパダ（法句経）にこうあります。「もしも愚者が愚であると知れば、すなわち賢者である。愚者であってしかも自ら賢者と思う者こそ、愚者と名付けられる。（第６３偈）」自らを愚者と知ることはまことに大切な教えであります。

「愚者の自覚を」といわれて、簡単にできれば問題はないのですが、これが簡単には出来ません。愚者のまま念仏生活に徹することが出来れば良いのですがそれさえ出来ません。世俗の中で暮らしていくためには、傲慢になったり、卑屈になったりの繰り返しで、全く落ち着きのない生活をしています。愚者の自覚を持てるかどうかは分かりませんが、今年こそ「謙虚であること」を目標にしたいと思います。

ところで、昨年から本堂・鐘楼改修事業に対し、厳しい経済状況の中、ご寄付に協力いただき大変ありがとうございます。温かいご支援により、寄付金額はほゞ目標を達成し、既に本堂の改修を終了することが出来ました。年明けから鐘楼の改修に着手いたしたいと考えております。工事中はご迷惑をおかけしますが、何卒ご協力の程、お願い申し上げます。　合掌

年間行事予定

平成十八年の行事の予定は次のとおりです。是非お参り下さい。

- 初念仏会　一月十七日（火）
- お彼岸春　三月十八～廿四日
- お盆東京　七月十三～十五日
- 　地元　八月十三～十五日
- 施餓鬼会　八月十七日（木）
- お彼岸秋　九月二十～廿六日
- お十夜会十一月十七日（金）

平成十八年年回表

- 一　周忌　平成十七　年
- 三　回忌　平成十六　年
- 七　回忌　平成十二　年
- 十三　回忌　平成　六　年
- 十七　回忌　平成　二　年
- 二十三回忌　昭和五十九年
- 二十七回忌　昭和五十五年
- 三十三回忌　昭和四十九年
- 三十七回忌　昭和四十五年
- 四十三回忌　昭和三十九年
- 四十七回忌　昭和三十五年
- 五十　回忌　昭和三十二年

本堂改修事業

本堂は窓枠からの雨漏り対策と空調設備の導入が目標でした。工事は十一月十七日の十夜法要までに終了しようと目論見、平成十七年十月に開始しました。しかし工事がちょっと長引いてしまい、「十夜法要」をはさんで、十二月上旬に終了しました。

これは、大工さんの日程調整が上手くいかなかったことが原因ですが、他にも理由がありました。それは工事に伴って、本堂正面の「山号額」や、四方に安置されていた「四天王像」を取り外すことが必要になり、取り外したついでに漆の塗り直しを行ったこと。さらに本堂外壁の塗り直しをするついでに、参道・駐車場の塀も塗り直すなど、当初よりも工事量が増えたことにも原因がありました。

初念仏会にゆっくりと、ご覧になって下さい。

本堂正面を庫裏の方から撮影した写真です。窓枠は新しく電動シャッター付きのアルミサッシにしました。前より外に突きだした印象です。

特徴的なのは窓枠の上につくられた、霧除けと呼ばれる小さな屋根です。昔の本堂には有ったのですが、昭和五十五年の大改修でアルミサッシにしたとき必要が無くなったと思って取り除いてしまいました。今回、万全の雨漏り対策として復活させました。

本堂正面（改修前）

本堂正面（改修後）

階段の左右に雨除け板を付けました。横なぐりの雨になると正面扉の敷居から水が浸入します。雨除け板をつけて脇を固めました。

次は、北東側（お墓に面した側）の改修前と改修後の写真です。電動シャッターと霧除けが良くわかると思います。この面の窓枠からの水漏れが最もひどかったので充分に対策を講じたつもりです。本堂正面、階段脇の雨除け板も見えるでしょう。

今年は幸い大型の台風が行徳地域を直撃することは有りませんでしたし、完成時期が遅くなってしまったので、効果の程はまだ確認できませんが、これだけ対策しておけば大丈夫と思います。いかがでしょうか。

改修前の様子

外に張り出した窓枠

電動シャッター（閉）

電動シャッターを閉めた改修後の様子（北側から）

アルミサッシを外に出した新しい窓枠

改修前の様子

大正年間に建てられた本堂の窓は木製ガラス戸で雨戸が有りました。大雨で漏水することはありませんでしたが、すきま風が吹き込んで、冬は寒いし、春や秋はほこりだらけでした。

先代住職が亡くなり後継住職に就任するときに、本堂の大修理を行いました。本堂を持ち上げて基礎を打ち直し、瓦屋根を銅板葺きに替え、木製ガラス戸をアルミサッシ窓に替えました。

その時、従来の鴨居と敷居をそのまま利用して、内側にアルミサッシを埋め込みましたが、アルミサッシと敷居のわずかな隙間から雨水が漏れてきたようです。その隙間を埋めるために、何度もコーキングをやり直しましたが水漏れが止まりませんでした。そこで、今回の大修理を行うことになった訳です。

今回の大修理の方針は、第一に従来の窓枠に対して、外側から覆うようにアルミサッシを被せる。第二に雨戸を設けるのふたつでした。

つまり、従来の窓枠の外側に電動雨戸付きのアルミサッシを付けることになりましたので、今までよりも外に出っ張った窓になりました。また、昔からあった鴨居や敷居は成形痕が有りましたので、新たに内側に窓枠を設けることにしました。この結果、従来は内側に出っ張っていたブラインドが窓枠の中に付けることが出来るようになりましたので、見た目にもスッキリした形に仕上がったと思います。

内側の新しい窓枠に塗装するか否か、塗装するならばどんな色にするかなど大いに迷いましたがなかなか良い具合に出来上がったと思っています。ただ、アルミサッシが外側に出っ張ってしまいました。ゴムを巻いておきましたが、本堂の周囲を歩くときには、アルミサッシの角に注意してください。

ブラインドもスッキリしました

改修前の様子

新規に設置された電源ボックスと室外機

天井には天吊四方吹出しの室外機二台を設置

今回、平成大修理の第二の目的は冷暖房設備の導入です。私が子供の頃は、初念仏の時には木製で、トタン板で内張した四角い火鉢に、炭をいけていました。その後も、陶器製の火鉢を使っていました。つまり、すきま風と局所暖房の時代でした。

昭和五十五年の大修理によって本堂の機密性が上がったので、石油ストーブを導入しました。しん上下式・対流形で灯油の燃える光が明るく、見た目にも暖かく感じられたものです。その後、石油温風ヒータ二台で暖房をまかなっていました。大型の温風ヒータがなく、家庭用で最も容量の大きいものを使用していましたが、真冬にはなかなか暖まらず、法事のある日には朝八時頃から三時間かけて暖めていました。

冷房についてはこれまで特に設備が有りませんでした。小型のエアコンが二台ついていましたが、これは庫裏を改築する時に余分になった機械を、廃棄するのはもったいないので本堂に付けたもので、外気温が三十度以下ならば冷えますが、三十度を超えると全く冷えないという代物でした。窓を開けておいた方が涼しいのですが、室内機が見えているのにエアコンを使わないのもケチをしているようで随分気を遣いました。

ここ数年、近隣の浄土宗寺院で新築・改築が行われ、冷暖房を完備した本堂が多くなりました。盛夏に行われる施餓鬼法要は汗をかきかき法要をするのが当たり前でしたが、最近は多くの寺院で涼しく法要が出来るようになりました。そこで、そろそろ、善照寺でも本格的な冷房が必要な時代になったかなと考えるようになってきました。

今回の大修理では天吊り型の大型エアコンを二台導入しました。このエアコンを導入するために、新しく低圧電力を導入しました。このため墓地側から電線を引き込むことになり、墓地の東端に電柱と検針器、裏手の塀づたいに電線を埋設し、本堂裏手に電源ボックスを設け、そこから電力を供給するようにしました。本堂裏側に大型の室外機二台を設置しました。暖房は既に使用していますが、三十分で暖かくなります。冷房は未だ性能を確認出来ませんが、次の夏が楽しみです。

このような具合で本堂の平成大修理は完了することが出来ました。予算をちょっとオーバーしましたが想定の範囲内で収まりました。

一月からは鐘楼の大修理になります。鐘楼全部を解体し保管しますので、正面駐車場の使える部分が小さくなります。工事中は何かとご迷惑をおかけすると思いますが、何卒ご協力の程お願い申し上げます。

なお、大きな法要があるときには会館奥の駐車場をお使い下さい。

合掌